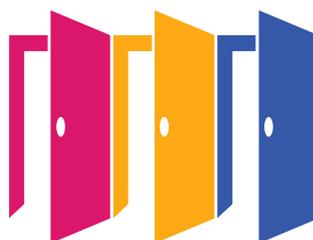


RID2660 地区国際奉仕委員会 NEWS LETTER

2020-21 年度 第6号



ロータリーは機会の扉を開く

ご挨拶

2020-21 年度 地区国際奉仕委員会
委員 中根 三恵子



2022 年 国際大会
ヒューストン

2022 年 6 月 4 日～8 日

大会会場
ジョージ R. ブラウン・コンベン
ションセンター (GRB)

ヒューストン国際大会にバーチャル
で出席する方法については近日中に
My Rotary に情報が公開されます。

<2021 年国際大会 録画視聴>

2021 年バーチャル国際大会に
登録されている方は、分科会を
含む大会プログラムの録画を
オンデマンドでご視聴いただけ
ます。オンデマンドで行事や
プログラムコンテンツにアクセス
するためのご登録は、
2021 年 6 月 16 日まで

平素は地区国際奉仕委員会の活動にご理解を賜り誠にありがとうございます。このニュースレター発行の 6 月末には緊急事態宣言も解除され、平和な世の中に戻つつあることを願いながら編集作業を開始しています。皆様の国際奉仕事業がどうかコロナ禍に遮断されることなく、更なる発展を遂げられますよう心からお祈り申し上げます。

さてこの度は、2660 地区国際奉仕委員会より 2020-21 年度の最終号となります第 6 号 NEWS LETTER をご案内致します。

今回は非常に活発な国際奉仕活動を展開されている大阪西南ロータリークラブの Y P E 事業をご紹介します。YPE とは、Young Professional Exchange の略で、簡単に言えば、二国間で相互に若手の研修生を送り出し、互いに他国の文化や価値観、ビジネススタイル等を学ぶための活動を言います。

大阪西南ロータリークラブは、多数の海外クラブと姉妹提携されており、同一年度中に、フィリピン「ターラック RC」と協調したトイレブロック寄贈事業、韓国の友好クラブ「セハンヤン RC」との姉妹クラブ締結、ハワイ「アラモアナ RC」、シンガポール「イースト RC」への交流訪問等、これだけでも目が回りそうな数々の国際奉仕活動をされながら、この度、シアトルの「イサクワ RC」と職業研修生の交換という新たな事業に挑戦されました。

この新規事業について、大阪西南 RC の瓦谷勝国際奉仕委員長始め、豊田勝会長エレクト、森田剛史幹事（いずれも役職は 2020-21 年度時点）に熱く語って頂きました。その素晴らしい企画力、行動力をこのニュースレターを通じてお伝えし、皆さまの今後の国際奉仕活動の一助になれば幸いと存じます。

NEWS LETTER 2020-21 年度 第6号



(左から森田会員、瓦谷会員、豊田会員)

〔活動目的〕

異文化、異なる価値観、異なるビジネススタイル等、自国との違いを受け入れ、相互理解を深め、グローバルな視野と経験を持つ次世代のロータリアンを育成すること。

〔事業予算〕

1,278,892 円

(地区補助金 556,848 円/クラブ拠出金 722,044 円)

大阪西南ロータリークラブ

<例会会場>

リーガロイヤルホテル大阪
大阪市北区中之島 5-3-68
TEL : 06-6448-1121
ビジターフィー : 4,800 円



<例会日時>

毎週木曜日 12 : 30 ~ 13 : 30
会員数 102 名
(2021 年 6 月 1 日現在)

〔活動内容〕

2019 年 9/21 ~ 9/28 日本よりシアトルへ研修生 4 名を送り出しました。4 名の研修生は、ロータリアンの家庭にホームステイさせて頂き、異国における一般家庭の日常生活を体験します。今回は Amazon や Google、ボーイングといった世界的有名企業から地元のビール工場や医療機器メーカー等、多岐の業種にわたる大小合わせて計 8 社を訪問しました。訪問企業では、同年代の社員やインド系・中国系の人材とも話す機会を設けて頂き、その多様性に大きな刺激を受け視野を広げました。また企業だけでなく、市役所を訪問し、現地の運営制度や選挙、税金、教育支援制度も学びました。現地例会への参加、毎晩の夕食会や歓送迎パーティ、一般で行けないような場所への観光・買物と、通常の海外旅行では得ることができない貴重な体験を、是非とも今後の人生に役立ててほしいと願います。

2019 年 10/19 ~ 10/28 シアトルから日本へ研修生 4 名を受け入れました。日本でも 4 家庭でホームステイを受け入れました。RC と RAC 両方の例会に参加、大企業 ~ 中小企業・最先端企業 ~ 伝統企業まで計 7 社の企業を訪問、起業家ミュージアムも見学しました。また日本の高齢化問題について学んでもらうため介護施設を訪問しました。異文化体験としては、生け花、お茶、和菓子作り、アニメアフレコ体験、カラオケ体験等、伝統文化から現代文化まで幅広く知ってもらう機会を与えました。休日にはクルージングやバーベキュー、ヨットで U S J にも行きました。道頓堀や大阪城、海遊館の観光等、受け入れチームがフル稼働でアテンドした結果、4 名の研修生は改めて日本に対するイメージが変わり、日本の多様性に驚いた様子でした。





企業訪問で得た体験を今後の仕事に役立てるという者、改めて英語の重要性に気づき学ぶ意欲にあふれている者、アメリカからは、日本の仕事に対する細やかな配慮や、貧富の差なく介護が受けられるシステムに感動した者、日本企業が大きくなる過程で様々な分野にチャレンジするという独特のスタイルに興味を示す者等、研修生それぞれが貴重な経験を心に刻んでいます。彼らがのちに、グローバルに活躍する有能な人材となり、感謝の気持ちを忘れず、研修生同士や各RCとの繋がりを大切にし、国際間の平和に寄与できるような人材に育てほしいと願っています。

【質問致しました】

質問：当プロジェクトを実行して大変だった点、良かった点をそれぞれ教えてください。

回答：やはり日本での受け入れが大変でした。若いエネルギー溢れる研修生達をアテンドするのは一週間でもかなりの重労働でした。事故のないよう注意しながら、朝から晩まで最後はふらふらになりながら付き合いましたが、それが結構楽しくて、大変さを共有した分、我々ロータリアン同士の絆が深まり、クラブが活性化した感があります。

質問：このプロジェクトを他クラブへも推奨しようと思いませんか？

回答：かつての職業交換である GSE（Group Study Exchange）事業は実施期間が長くて、それこそ大変だったようですが、YPE 事業は約 1 週間という短期間で終了するため、集中してできるので実行しやすく、やはりクラブとして団結するので、とてもお勧めです。

質問：このプロジェクトを実行する上での障壁や問題点はありますか？

回答：地区補助金を利用した関係上、特定のロータリアンへの利益供与とならないよう、会員の血縁者を選出できない等、研修生選びには大変苦労しました。紹介や募集、応募、面接を繰り返し、適切な人材を選ぶ過程は大変でした。今後は数クラブ連携しての合同事業とし、一クラブでは賄いきれない労力や予算を設け、制約を受けずに大きく広く自由な展開をしたいと思います。そして、クラブ間の絆も深まっていくことを期待します。

質問：今現在も、海外姉妹クラブとの W E B ミーティングは継続されているとのことですが、このコロナ禍において、他に何か具体的な国際奉仕活動をされていますか？

回答：コロナによる渡航制限で、日本から帰国できない日本在留の留学生たちを支援する新たなプロジェクトを開始しました。日本で就職を希望している留学生を対象に行われるビジネス日本語能力テスト-BJT（Business Japanese Proficiency Test）の受験料を、コロナ禍で経済的に困窮している留学生（70名選出）に支援するという活動です。

そしてその成績上位者 8 名を例会に招待し、卓話の機会を与え、就職へと繋げることを目的とする就労支援事業です。実際に行われた成績優秀者の卓話は、流暢な日本語はもちろんのこと、尊敬語・謙譲語もバッチリ、内容も素晴らしいスピーチに、我々ロータリアンは一同に驚きと感動に包まれました。一生懸命の頑張りが伝わり、益々支援してあげたいと思わせてくれました。

最後に：若い世代の今後の人生に、意義深い影響を与える素晴らしい活動の数々をご紹介出来るととても光栄でした。

◆◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆◆

2020-21 年度地区国際奉仕委員会委員長を務めさせて頂きました、木下 基司 (吹田西 RC)で御座います。

この一年間で無事 6 刊の News Letter を発刊させて頂くことが出来ました。皆様のクラブでの国際奉仕活動の一助にして頂けましたら幸いです。簡 仁一ガバナー年度は、コロナ禍の影響により通年の行事が大幅に変更され、Web 配信を併用したハイブリッド型での委員長会議や、従来なら海外へメンバーを集って訪れ、現地でしか味わえなかった国際奉仕事業の贈呈式の感動が、Web で現地を繋ぎ、例会場からクラブメンバー全員でその感動を共感出来る様になったりといった、過去には考えられなかったことが現実に行えるようになりました。ある意味、ロータリーの奉仕の理想の実践が実質的に大幅な変更を余儀無くされた、歴史的な瞬間の一年であったのかもしれません。

しかしアフターコロナも、我々ロータリアンの奉仕活動は未来永劫続いていくよう、更にはこの先同じような世界規模での不測の事態に於いても、1905 年 2 月 23 日にポール・ハリスらが結成しなければ始まらなかったロータリークラブの活動を、継承していくという重要な任務についている我々の使命に、変わりはないと再確認する次第です。

皆様方に於かれましては、今年度も地区国際奉仕委員会活動にご理解を賜り誠に有難う御座いました。また、この一年間の委員長という私にとって有意義な時間を与えて下さった、簡 仁一ガバナーをはじめとする 2660 地区の皆様、所属する吹田西 RC の皆様に感謝の気持ちを込めまして、ご挨拶とさせて頂きます。誠に有難う御座いました。

次年度も北井 雄大 委員長(大阪平野 RC)が率いる地区国際奉仕委員会へのご理解を宜しくお願い致します。

<p>< 発 刊 > 2020-21 年度 RID2660 地区国際奉仕委員会</p>	<p>委員長 木下 基司 (吹田西) 副委員長 宮崎 正人 (高槻東) 副委員長 北井 雄大 (大阪平野) 委員 津田 和義 (大阪北梅田) 委員 徳上 洋之 (大阪リバーサイド) 委員 國司 真相 (池田くれは) 委員 豊田 勝 (大阪西南) 委員 津村 昌明 (茨木西) 委員 西本 恵美子 (高槻) 委員 中根 三恵子 (大阪ユニバーサルシティ)</p> <p>■委員会 毎月第 1 木曜日(原則) ガバナー事務所にて開催■</p>
<p>NEWS LETTER に関する お問い合わせ</p>	<p>国際ロータリー第 2660 地区 ガバナー事務所 〒541-0052 大阪市中央区安土町 1-5-11 トヤマビル東館 6F TEL : 06-6264-2660 E-mail : kamo@ri2660.gr.jp</p>